

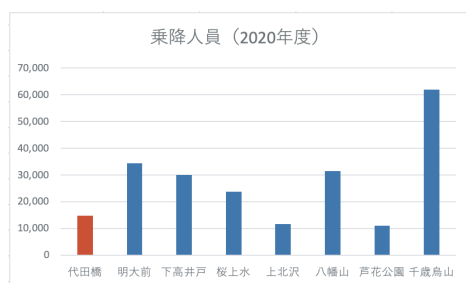
渡部隼人
鳥海研究室

和田堀給水所跡地計画 ～新興スポーツによる住民の日常と街の遺構～

敷地：東京都世田谷区代田橋駅
用途：スポーツ施設、公園、広場

敷地

●敷地は東京都世田谷区の京王線代田橋駅
代田橋駅は新宿駅から4駅のところに位置する。しかし、隣の明大前駅、笹塚駅がともに特急が止まること、隣の駅までの間隔が800mしかないことから代田橋駅の方が近くても利便性を考慮して、代田橋駅を利用しない人が多いのが現状である。また、世田谷区での人口は増え続けているのに対し、代田橋駅の乗降人口は増えていない。



世田谷区の京王線の乗降人員（2020年度）

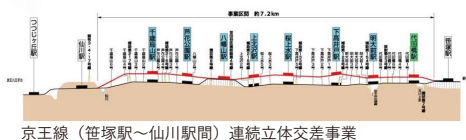
背景・問題点

●地上駅であるため、線路によって街が分断しているだけでなく、駅前に溜まり場がないことから人々の交流がないのが現状

●駅前に給水所の200m×200m程の敷地があるが、一般の人が利用できない閉鎖的なスペースとなっている

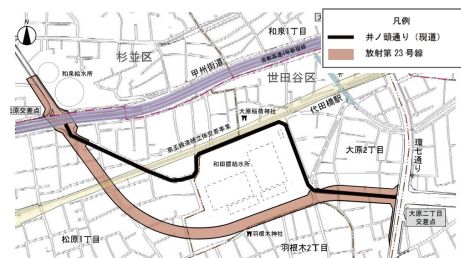
事業

●京王線連続立体交差事業
→地上駅である駅が高架駅となる



京王線（笹塚駅～仙川駅間）連続立体交差事業

●都市計画道路事業
→井の頭通りと環七通りの二つの大通りを繋ぐ



都市計画道路事業

●和田堀給水所建替事業
→給水所の建て替えが行われる



現在の和田堀給水所の様子

全体計画

●建て替え事業のある和田堀給水所
→世田谷区のシンボルにもなっているため取り壊しは勿体ないと考え産業建築である和田堀給水所のコンバージョン
→この円の形をベースに全体を円でつなぐようなランドスケープデザイン

●高架化する駅
→人々の交流を生み街の新たな活動拠点となる
駅前空間の提案

→現在は周辺にバス停がないため駅付近に新しくバス停、タクシー乗り場を設けます

●東京オリンピックにより生まれた新興スポーツを行えるスポーツ施設
→新興スポーツを実際のオリンピックサイズで設計

→需要が高まったが整備された場所が少ないスケートボードやボルダリング、BMX
→需要は昔からあるが整備された場所が減ってきているスケートリンク

●世田谷区の特徴である世田谷プレーパークと呼ばれるなんでも自由に遊ぶことができる場所
→普通の公園で遊ぶことのできないようなボール遊びや思いっきり走り回ることのような遊び場

コンセプト

1：鉄道高架化による街の一体化による活動拠点の形成

2：地域の住民の新たな交流

3：代田橋のシンボルの継承



●駅前広場

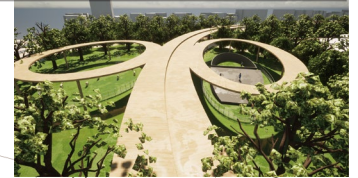
- ・駅前になかったバス停等を駅からアクセスしやすい位置に設ける。

●子供の遊び場（世田谷プレーパーク）

- ・普通の公園ではできないような遊びをできる空間。
- ・ドッグラン、子供の遊び場を設ける。
- ・さまざまな地域の子供の交流。

●鉄道駅舎

- ・世田谷区のシンボルである玉川上水緑道にある‘ゆずり橋’の赤レンガ造りのアーチの形とする。



●小回廊

- ・木々に囲まれ高さも他の小回廊より低く落ち着いた雰囲気のある小回廊

●大回廊

- ・高架化に合わせた高架下空間の演出。
- ・駅から駅前広場、世田谷プレーパーク、自然、新興スポーツを見渡せながら回廊を利用できる。
- ・上下のつながりの演出。



●給水所コンバージョン

- ・世田谷区のシンボルでもある給水所を活かした歴史の継承。
- ・水を連想させかつ競技場が減ってきているスケートリンク場の設計。

●BMX パーク

- ・オリンピックで競技人口が減っているがやる場所がない BMX パークの設計。